

ロルス之道

地上に住まうもののほとんどはドラウの本質を知らない。黒曜の肌と雪白の髪を持つエルフは、大地の暗い深みから殺し、奪い、攫うために忍び寄る悪夢のクリーチャーだ。伝説はドラウの退廃と傲慢の文化によって築かれた、洞窟のすべてに魔法の光がまたたく巨大都市を語っている。

ドラウと遭遇して生き残れた者たちは、種族の男性を使い捨ての駒として扱う恐るべき母系社会について語る。彼らはドラウがデーモンの蜘蛛女神を信仰し、蜘蛛の眷属はその残酷と裏切りの社会で尊ばれている。

地上世界のエルフたちは、彼らの闇の血族について話されるとき恐れおののいて顔を背ける。ほとんどの者はセルダラインの裏切り者であること以外、ドラウについて話しはしない。エルフの賢者はドラウの苦しい宿命は、彼らが背負うべき行ないへの当然の報いであると語る。

この章ではロルスの意志を反映したメンゾベランザンのドラウ文化を解説していく。この章には以下の項がある。

- **蜘蛛の女王:**メンゾベランザンにおける彼女への信仰、および彼女への信仰を原理としている司法制度から、ロルスの役割を見る
- **ドラウのすべて:**ドラウの階級——貴族と女性たちの関係、庶民の上に君臨する貴族、そして都市を維持するためにその力(しばしばその命)を使い潰されるドラウではない奴隷について……。
- **経済:**ドラウの経済には大きく分けて通貨と評判という2つのものがあり、都市で取り引きをしている商人一族だけのものではない。
- **余暇:**ドラウがくつろぎ、その地位にある喜びを味わう方法。メンゾベランザンでは年に3回、ドラウが彼らたちと彼らの女神を祝福する練りに練った祝祭が催される。
- **言語:**君が取り引きに使うものが秘密である場合、いくつかの異なるやり方で会話することが必要不可欠になる。この項ではドラウの舌によくのぼる広く知られたことわざと金言を紹介する。



